

FWD生命 Corporate Guide 2023

FWD生命保険株式会社

〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-2-5 日本橋本町二丁目ビル
ウェブサイト fwdlife.co.jp
総合サービスセンター 0120-211-901(通話料無料)
受付時間:月-金 9:00-18:00(祝日・年末年始を除く)



FWD生命アンバサダー
ディーン・フジオカ



会社概要 (2023年3月31日現在)

設立:1996年(平成8年)8月8日

資本金:377億5千万円

総資産:1兆985億円

従業員数:848名

ウェブサイト:fwdlife.co.jp

ブランドビジョン

人々が抱く"保険"に対する感じ方・考え方を刷新すること

ブランドスローガン

Celebrate living (人生を讃えよう。)

FWD生命は、「人々が抱く“保険”に対する感じ方・考え方を刷新すること」をビジョンに掲げ、1996年8月の創業以来、常にお客さまの視点で考え、シンプルでわかりやすく、独自性豊かな商品・サービスを提供し、FWDグループの一員としてアジアを代表する保険会社になることを目指しています。

またブランドスローガン「Celebrate living(人生を讃えよう。)」には、お客さまの人生や挑戦をサポートする存在でありたい、という私たちの想いが込められています。

本冊子は別途記載がある場合を除き、2023年10月1日時点での情報を掲載しております。

ごあいさつ



代表取締役社長 兼 CEO
山岸 英樹

常にお客さま視点で考え、
シンプルでわかりやすく独自性豊かな商品・サービスを提供し、
FWDグループの一員として
アジアを代表する保険会社になることを目指します。

平素より、FWD生命をお引き立ていただき、誠にありがとうございます。

当社は、1996年8月に事業を開始し、2017年にはパシフィック・センチュリー・グループ(PCG)傘下の保険事業部門であるFWDグループの100%子会社となりました。2023年にはFWDグループも創立10周年を迎えました。長年にわたるお客さまの多大なるご支援に厚く御礼申し上げます。

当社はブランドビジョン「人々が抱く“保険”に対する感じ方・考え方を刷新すること」、ブランドスローガン「Celebrate living」(人生を讃えよう。)を掲げ、アジアを代表する保険会社を目指して事業を展開しております。2022年12月には、アジアから世界へと活躍の場を広げるミュージシャン/俳優のディーン・フジオカさんをアンバサダーに起用し、ブランディングを展開しております。

また、独自性豊かな商品開発にも努めており、2022年1月に発売した医療保険(「FWD医療」・「FWD医療引受緩和」)は、おかげさまで過去に販売した商品において最短となる9か月間(2022年9月)で成立件数10万件に到達いたしました。2023年4月には、より多くのお客さまに充実した保障をご提供できるよう「FWD医療引受緩和」の保険料率改定も行いました。2023年6月には、教育資金の準備、老後の生活資金の備えとして「死亡保障」と「資産形成」の両方に対応できる「FWD終身(低解約返戻金型)」を発売いたしました。

お客さまの利便性の向上にも注力しており、2022年8月より当社ホームページで2022年9月より総合サービスセンター(お客さま専用電話回線)で「お問い合わせメニュー(ビジュアルIVR)」を導入し、より迅速にお客さまからのお問い合わせにお応えするとともに、同年10月にはオンライン本人確認システム「LIQUID eKYC」を導入し、弊社ホームページにて一部のお手続きが5分程度で完了できるようになりました。そして、2023年3月には「FWD医療」のインターネット見積り・申込みページをシンプルでわかりやすいページデザインに変更し、最短10分でお申込みを完了いただけるように刷新いたしました。

引き続き、新たなテクノロジーを活用したお客さまサービスの向上、そしてお客さまのニーズに的確にお応えするための新たな顧客体験の提供に取り組んでまいります。

今後もより一層のご支援、ご愛顧のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

2023年7月

FWDについて

当社はFWDグループの一員です

FWDグループは、アジア全域で生命保険事業を展開し、世界で最も成長が著しい保険マーケットを含む、アジアの10の地域で、約1,100万人のお客さまに支持されています。

FWDグループは2023年に設立10周年をむかえました。デジタルテクノロジーを活用した革新的な手法と、わかりやすい商品を通して、シンプル、スピーディー、スムーズなお手続きを、お客さまにご提供できるよう努めています。

このお客さま目線のアプローチを通じて、FWDグループは人々が抱く“保険”に対する感じ方・考え方を刷新します。



FWDグループの概要 (2022年時点)¹

FWD進出先
10の地域

22の
バンカシュアランス
パートナーのうち
9つと
専属契約し
その支店は
4,000
店以上

顧客数
800万人
うち、個人保険の
新規契約者は
ミレニアル世代が
60%以上

従業員数
7,017名

トップ6
MDRT²
多国籍な保険会社の
グローバルランキング

契約募集人
48,400名

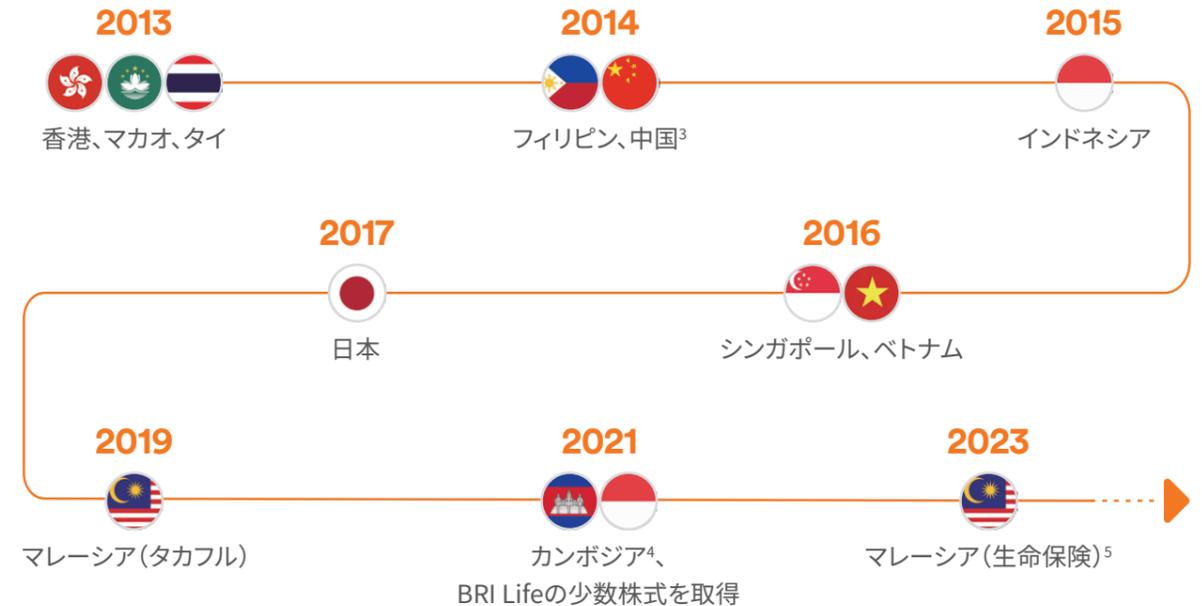
FWDのビジョン



FWDグループCEO
Huynh Thanh Phong
フン・タン・フォン

人々が抱く“保険”に対する
感じ方・考え方を刷新すること

FWDグループの展開



注:

1. 2022年12月31日時点の概算値です。
2. Million Dollar Round Table は、専門的かつ倫理的な行動に努めながら、顕著な販売実績を表彰する世界的なプロフェッショナルな組織です。
3. 上海駐在員事務所。
4. 2021年カンボジアで事業を開始。
5. FWDグループは、Gibraltar BSN Life Berhadの過半数株式に投資する契約の締結後、マレーシアの生命保険市場に参入。この取引は2023年の第2四半期に完了する予定です。

代表的な経営指標

FWD生命の2022年度の決算の概況について、代表的な経営指標を次のとおりお知らせします。

(単位:百万円)

項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
保険料収入	187,689	195,148	204,182	205,576	201,184
経常利益又は経常損失(△)	10,719	6,989	8,407	13,454	△1,505
当期純利益又は当期純損失(△)	8,215	4,856	4,677	10,755	△2,680
基礎利益	△9,127	△1,782	830	5,785	△5,118

(単位:百万円)

項目	2018年度末	2019年度末	2020年度末	2021年度末	2022年度末
責任準備金残高	776,553	846,121	905,147	957,652	1,006,855
総資産	882,227	926,116	1,021,332	1,082,495	1,098,526
貸付金残高	16,873	18,617	18,788	21,232	21,022
有価証券残高	780,590	785,255	915,223	965,913	978,017
保有契約高	6,910,568	9,375,110	12,002,591	14,134,338	15,765,484
ソルベンシー・マージン比率	1,029.7%	912.6%	1,157.0%	1,248.2%	1,041.5%

保険料収入

ご契約者さまからいただいた保険料です。

2022年度

2,011 億円

(前年度2,055億円)

保険料収入は前期から2.1%減少し2,011億円となったものの、第3分野商品の保険料は前期比で14.1%増加となりました。



経常利益

生命保険事業本来の営業活動により、毎年継続的に発生する収益(経常収益)から費用(経常費用)を差し引いた残額が経常利益(経常損失)です。経常収益は「保険料等収入」「資産運用収益」「その他経常収益」に、経常費用は「保険金等支払金」「責任準備金等繰入額」「資産運用費用」「事業費」「その他経常費用」に区分されています。

2022年度

△15 億円 (前年度 134億円)

2022年度経常利益は、主に有価証券売却損が増加したことや、新型コロナウイルス感染症の影響による給付金の支払の増加等により△15億円となりました。

当期純利益

「税引前当期純利益」から「法人税及び住民税」ならびに「法人税等調整額」を控除した金額で、会社のすべての活動によって生じた純利益または純損失を意味します。

2022年度

△26 億円 (前年度 107億円)

2022年度当期純利益は、主に有価証券売却損が増加したことや、新型コロナウイルス感染症の影響による給付金の支払の増加等により△26億円となりました。

基礎利益

一年間の保険本業の収益力を示す指標の一つで、一般事業会社の営業利益や、銀行の業務純益に近いものです。これに有価証券の売却損益などの「キャピタル損益」と「臨時損益」を加えたものが「経常利益」となります。ここでいう保険本業とは、収納した保険料や、運用収益から保険金・年金・給付金等を支払ったり、将来の支払いに備えるために責任準備金を積み立て、運用することなどをいいます。

2022年度

△51 億円 (前年度 57億円)

2022年度基礎利益は、△51億円となりました。なお、2022年度よりヘッジコストを基礎利益の算定に含める等の変更をしており、変更前基準による基礎利益は10億円となりました。

責任準備金残高

責任準備金は、将来の保険金・年金・給付金の支払いに備え、保険業法で保険種類ごとに積み立てが義務付けられている準備金です。

2022年度末

1兆68 億円

(前年度末 9,576億円)

2022年度末責任準備金残高は1兆68億円となりました。なお、当社は2006年度より「平準純保険料式」による積立、および標準責任準備金対象契約については「標準責任準備金」の積立を行っています。



総資産

総資産とは、生命保険会社が営業活動に用いる財産の総額をいいます。「現金及び預貯金」「有価証券」「貸付金」など、貸借対照表の資産の部の合計で、将来の保険金・年金・給付金の支払いに備えた責任準備金などに対応しているものです。

2022年度末

1兆985 億円

(前年度末 1兆824億円)

2022年度末総資産残高は、着実な保有契約の増加等により1兆985億円となりました。



保有契約高

保有契約高とは、個々のお客さまに対して生命保険会社が保障する金額の総合計額です。例えば、個人保険では死亡時の支払金額等の総合計額を表しています。

2022年度末

15兆7,654 億円

(前年度末 14兆1,343億円)

2022年度末保有契約高は15兆7,654億円となりました。



貸付金残高

生命保険会社の貸付金には「保険約款貸付」と「一般貸付」があります。さらに「保険約款貸付」は、契約者が資金を必要としたときに解約返戻金の一定範囲内で利用できる「保険契約者貸付」と、保険料のお支払いが一時的に困難になり、払込猶予期間内に払い込まれない場合に、保険契約の失効を防ぐため、解約返戻金の範囲内で、保険料とその利息の合計額の立て替えを行う「保険料振替貸付」の2種類に区分されます。

2022年度末

210 億円

(前年度末 212億円)

2022年度末貸付金残高は210億円となりました。



資本金

資本金とは生命保険会社の事業運営の基礎となる資金で、株主からの出資額のうち資本準備金を除いた金額をいいます。

2022年度末

377 億円

(前年度末 377億円)

2022年度末資本金は377億円です。

逆ざやの状況

予定として見込んでいる運用収益を実際の運用収益などでまかなえない状態が発生することがあり、これを「逆ざや」状態といいます。

当社は2006年度以降、逆ざや状態は発生していません。

有価証券残高

有価証券には、「国債」「地方債」「社債」(三者を合わせて「公社債」ともいいます)「株式」「外国証券」「その他の証券」などがあります。

2022年度末

9,780 億円

(前年度末 9,659億円)

2022年度末有価証券残高は、着実な保有契約の増加等により9,780億円となりました。



ソルベンシー・マージン比率

生命保険会社は、将来の保険金などの支払いに備えて責任準備金を積み立てており、通常予想できる範囲のリスクについては責任準備金の範囲内で対応できます。しかし、環境の変化などによって予想もしない出来事が起こる場合があります。例えば、大災害や株の大暴落など、通常の予測を超えて発生するリスクに対応できる「支払余力」を有しているかどうかを判断するための行政監督上の指標の一つがソルベンシー・マージン比率です。

具体的には、純資産などの内部留保と有価証券含み益などの合計（ソルベンシー・マージン総額）を、数値化した諸リスクの合計額で割り算して求めます。

なお、この比率が200%を下回った場合には、監督当局によって早期に経営の健全性を回復するための措置がとられます。ソルベンシー・マージン比率は経営の健全性を示す一つの指標ですが、この比率だけをとりえて経営の健全性のすべてを判断することは適当ではなく、資産運用の状況や業績の推移等の経営情報などから総合的に判断することが大切です。

2022年度末

1,041.5% (前年度末 1,248.2%)

当社の2022年度末のソルベンシー・マージン比率は1,041.5%となりました。

* ソルベンシー・マージン比率は、その数値が200%以上であれば「保険金等の支払能力の充実の状況が適当である」とされています。

(注) 上記は、保険業法施行規則第86条、第87条および平成8年大蔵省告示第50号の規定に基づいて算出しています。

直近5事業年度におけるソルベンシー・マージン比率の推移

(単位:百万円)

	2018年度末	2019年度末	2020年度末	2021年度末	2022年度末
ソルベンシー・マージン比率	1,029.7%	912.6%	1,157.0%	1,248.2%	1,041.5%
ソルベンシー・マージン総額	98,313	92,768	125,075	129,665	107,037
リスクの合計額	19,094	20,328	21,619	20,774	20,552

ソルベンシー・マージン比率の算出式

ソルベンシー・マージン比率は次の算式により、算出されます。

$$\text{ソルベンシー・マージン比率 (\%)} = \frac{\text{ソルベンシー・マージン総額}}{(1/2) \times \text{リスクの合計額}} \times 100$$

■ ソルベンシー・マージン総額

ソルベンシー・マージン総額は次の合計額です。

資本金等、価格変動準備金、危険準備金、一般貸倒引当金、(その他有価証券評価差額金(税効果控除前)・繰延ヘッジ損益(税効果控除前))×90%(マイナスの場合100%)、土地の含み損益×85%(マイナスの場合100%)、持込資本金等、負債性資本調達手段等、保険料積立金等余剰部分、控除項目、その他

■ リスクの合計額

$$\sqrt{(R_1+R_8)^2+(R_2+R_3+R_7)^2}+R_4$$

保険リスク、予定利率リスク、資産運用リスク、経営管理リスク、第三分野保険の保険リスクなど通常予想できる範囲を超える諸リスクを数値化して算出しています。

保険リスク相当額 (R1)

大災害の発生などにより保険金支払いが急増するリスク相当額

予定利率リスク相当額 (R2)

運用環境の悪化により資産運用利回りが予定利率を下回るリスク相当額

資産運用リスク相当額 (R3)

株価暴落・為替相場の激変などにより資産価値が大幅に下落するリスク、および貸付先企業の倒産などにより貸倒れが急増するリスク相当額

経営管理リスク相当額 (R4)

業務の運営上通常の予測を超えて発生し得るリスク相当額

最低保証リスク相当額 (R7)

変額保険、変額年金保険の保険金等の最低保証に関するリスク相当額

第三分野保険の保険リスク相当額 (R8)

医療保険やがん保険などのいわゆる第三分野保険について保険金等の支払いが急増するリスク相当額

コーポレートデータ

FWD生命の会社の概況および組織について、次のとおりお知らせします。

沿革

当社は、1996年8月8日に設立され、1996年8月27日付で生命保険事業免許を取得した後、1996年10月1日に営業を開始しました。

1996年	8月 10月	富士火災海上保険株式会社の100%子会社として設立 終身保険、定期保険、養老保険等の販売を開始
1997年	8月	逓増定期保険の販売を開始
1998年	6月	ウェブサイトを開設
2000年	4月	低解約返戻金型終身保険『E-終身』の販売を開始
2001年	1月 7月	医療保険の販売を開始 がん保険の販売を開始
2002年	6月	逓減定期保険の販売を開始
2008年	1月 2月	『無解約返戻金型収入保障保険』を発売 『保険料払込免除特約付無解約返戻金型収入保障保険』を発売
2009年	2月	無解約返戻金型医療保険(08)『ゴールドメディ』を発売開始
2010年	3月 10月	引受基準緩和型終身医療保険(10)(無配当)『ゴールドメディ・ワイド』を発売 無解約返戻金型がん療養保険(10)(無配当)『がんベスト・ゴールド』を発売
2011年	2月	無解約返戻金型がん療養保険(10)『がんベスト・ゴールド』の販売件数が1万5,000件を突破
2012年	3月 8月	『(無配当)総合福祉団体定期保険』の販売を開始 保有契約件数が50万件を突破
2013年	4月	社名をAIG富士生命保険株式会社に変更 引受基準緩和型終身保険(低解約返戻金型)(2012)『告知が少ないE-終身』および 無選択型終身保険(低解約返戻金型)(2012)の販売を開始
2014年	3月 7月	無解約返戻金型医療保険(2013)『さいふにやさしい医療保険』の販売を開始 無解約返戻金型悪性新生物療養保険(2014)『がんベスト・ゴールドα』の販売を開始
2015年	3月 12月	保有契約件数が100万件を突破 無解約返戻金型入院一時金給付保険(2015)『医療ベスト・ゴールド』の販売を開始
2016年	3月	生活障害型定期保険『生活障がい定期保険』の販売を開始
2017年	3月 4月 9月	無解約返戻金型悪性新生物療養保険(2017)『新がんベスト・ゴールドα』を発売 FWDグループが当社全株式を取得 社名をFWD富士生命保険株式会社に変更
2018年	8月	無解約返戻金型収入保障保険Ⅱ『FWD収入保障』の販売を開始 引受基準緩和型収入保障保険(無解約返戻金型)『FWD収入保障引受緩和』の販売を開始
2019年	8月 11月	災害保障重視期間付定期保険『FWD災害保障重視期間付定期』の販売を開始 逓増定期保険Ⅱ『FWD逓増定期』の販売を開始
2020年	11月 12月	無解約返戻金型がん保険『FWDがんベスト・ゴールド』の販売を開始 保有契約件数が150万件を突破
2021年	11月	社名をFWD生命保険株式会社に変更
2022年	1月	無解約返戻金型医療保険『FWD医療』および 引受基準緩和型医療保険(無解約返戻金型)『FWD医療引受緩和』の販売を開始
2023年	6月	低解約返戻金型終身保険『FWD終身(低解約返戻金型)』の販売を開始

2023年度のコミュニティケア(CSR活動)

FWDグループではCSRに関する自社の活動をコミュニティケアとよんでいます。

当社は、コミュニティが抱える問題解決への貢献を通じて、社会に信頼と安心をお届けするとともに、お客さま目線でのアプローチをいっそう重視し、ビジョンである「人々が抱く“保険”に対する感じ方・考え方を刷新すること」の実現に向けて取り組めます。

アピアランスサポート動画

「治療中も前向きに今日と向き合い、自分らしく生きる」をテーマに、がん治療中の髪・肌・爪などのアピアランス(外見)の悩みを持つ方々に向けた動画製作を支援し、動画共有サービスYouTube等で公開しています。

動画内では、がん治療経験者の矢方美紀さん(タレント・元SKE48)も出演しており、これから治療が始まる方、今副作用で悩んでいるという方に、すぐに役立つレクチャーやセルフケアの方法などを動画全10本で紹介しています。



ウィッグ寄贈

がん患者の方の見た目の変化による精神的苦痛や、闘病中の生活・仕事の不安など様々な心配事を抱える患者の方やその周りの方の負担が少しでも軽減され、患者の方が治療をしながらでも自分らしい生活を送ることを願い2022年より医療用ウィッグをアピアランスサポートを必要とする方に寄贈をしてきました。



・パートナー：NPO法人 全国福祉理美容師養成協会(NPOふくりび)

「誰もがその人らしく美しく過ごせる社会の実現」を目指し、国内では高齢者・障害者・闘病者らの支援や、発展途上国での職業訓練を実施しています。

オレンジリボン運動

子ども虐待防止のシンボルマークとしてオレンジリボンを広めることで、子ども虐待をなくすことを呼びかける市民運動です。同じオレンジをブランドカラーとする当社は、『オレンジリボン運動』の支援の一環として、子どもと子育てをやさしく支える、児童相談所相談専用ダイヤルの周知を中心に取り組んでいきます。

子育てに関する
悩みや質問などの
相談窓口

児童相談所相談専用ダイヤル

いちはやく

おなやみを

0120-189-783



2023年9月17日(日)のオリックス・バファローズ対東北楽天ゴールデンイーグルス戦のゲームスポンサーとなり、『FWD生命 オレンジリボン運動デー』を開催しました。全国学童野球大会「ポップアスリートカップ」に参加する小学生約50名を招待し、当社社員と一緒に募金活動を行いました。



・パートナー：認定NPO法人 児童虐待防止全国ネットワーク

商品紹介

FWD生命では、すべてのお客さまに確かな安心を提供できるように、常にお客さまの目線で考え、お客さまのさまざまなニーズにお応えするために、数多くの商品・サービスを取り揃えています。

主な商品 商品の最新状況は当社ウェブサイト、または当社営業支社等でご確認ください。

記載事項は、商品または特約の概要を説明しているもので、ご契約にかかわるすべての事項を記載したものではありません。ご検討の際には、商品のパンフレット、重要事項説明書(契約概要・注意喚起情報)、ご契約のしおり・約款等を必ずご確認ください。

個人のお客さま

—生涯の保障を準備する保険

● FWD終身(低解約返戻金型)

[低解約返戻金型終身保険]

死亡・所定の高度障害状態を一生保障します。

低解約返戻金型のため、この商品を低解約返戻金型としなかった場合よりも保険料が割安です。



—一定期間の保障を準備する保険

● FWD定期/FWD優良体定期

[定期保険/優良体定期保険]

一定期間、死亡・所定の高度障害状態を保障します。

保障を必要とする時期に合わせて保険期間を選ぶことができ、保険期間満了後、ご契約を更新し保障を継続することもできます。

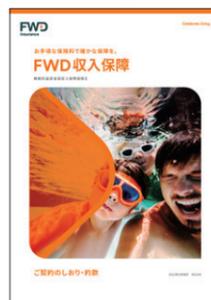


—のこされた家族の生活費をサポートする保険

● FWD収入保障

[無解約返戻金型収入保障保険Ⅱ]

死亡・所定の高度障害状態に該当したとき、家族の生活費を毎月サポートする保険です。



● FWD収入保障引受緩和

[引受基準緩和型収入保障保険(無解約返戻金型)]

持病や既往症がある方でもお申込みいただきやすい収入保障保険です。



—がんに備えるための保険

● FWDがんベスト・ゴールド

[無解約返戻金型がん保険]

がんと診断確定されたら、まとまった金額が受け取れる一時金給付タイプの保険です。

特約を付加することにより、収入減や自由診療などにも備えられ、保障内容を充実させることができます。



—病気やケガに備えるための保険

● FWD医療

[無解約返戻金型医療保険]

入院または手術に対する医療保障を主な目的とした商品です。特約や特則を付加することにより、保障内容を充実させることができます。



● FWD医療引受緩和

[引受基準緩和型医療保険(無解約返戻金型)]

持病や既往症がある方でも、簡単な告知でお申込みいただきやすい医療保険です。



法人のお客さま

—経営リスクに備えるための保険

● FWD災害保障重視期間付定期

[災害保障重視期間付定期保険]

ご職業のみの簡単な告知でお申込みいただけます。



通信販売でご加入いただける商品

通信販売とは

郵便、ウェブサイトでの保険の申込みができる手続き方法です。

ウェブサイトURL: fwdlife.co.jp

ウェブサイトでご加入いただける商品

- FWDがんベスト・ゴールド [無解約返戻金型がん保険]
- FWD医療 [無解約返戻金型医療保険]
- FWD医療引受緩和 [引受基準緩和型医療保険(無解約返戻金型)]

郵送でご加入いただける商品

- FWDがんベスト・ゴールド [無解約返戻金型がん保険]
- FWD医療 [無解約返戻金型医療保険]
- FWD医療引受緩和 [引受基準緩和型医療保険(無解約返戻金型)]



銀行等金融機関窓口からご加入いただける商品

提携先銀行等金融機関の営業店にて、保険にお申込みいただくことが可能です。

金融機関により、お取扱商品が異なります。また金融機関により、お取扱いできる店舗が限られている場合があります。

※提携先の金融機関、お取扱商品は、当社ホームページをご覧ください。



外部評価・ランキング情報

2023年 オリコン顧客満足度®調査での高い評価



収入保障型生命保険商品ランキング
FWD収入保障 3年連続 第1位



保険ランキング雑誌での高い評価

【よい保険・悪い保険2023年度版】

- 第1位 収入保障保険部門
FWD収入保障 4年連続 第1位
- 第2位 がん保険部門
FWDがんベスト・ゴールド
- 第2位 引受基準緩和型保険部門
FWD収入保障引受緩和

※徳間書店 2022年12月12日発売

【保険完全ガイド】

- 第2位 収入保障保険ランキング
FWD収入保障
- 第2位 医療保険ランキング
FWD医療
- 第4位 終身保険ランキング
FWD終身（低解約返戻金型）

※晋遊舎 2023年9月26日発売

【MONOQLO ベストバイ オブ・ザ・イヤー2023上半期】

- 受賞 収入保障保険部門
FWD収入保障

※晋遊舎 2023年6月19日発売

コールセンターお客さま対応の高い評価



2023年度HDI格付けベンチマークで、
FWD生命は、最高評価である**三つ星**を受賞!!

サポートサービス業界の国際機関HDIの日本における拠点HDI-JapanによるHDI格付けベンチマークの「クオリティ」格付けにおいて、当社コールセンターが最高評価の「三つ星」を受賞しました。

HDI格付けベンチマークは、HDIの国際基準に基づいて設定された評価基準に沿って、顧客の視点で評価し、三つ星～星なしの4段階で評価するものです。評価視点はお客さまがどう感じているかを重視し、特に既存のお客さま向けのアフターサービスが対象となります。

関連サービス

商品付帯サービス

FWD健康サービス

ベストホスピタルネットワークサービス

よりよい医療を選択するため、総合相談医によるセカンドオピニオンや医療機関への受診手配を受けられるサービスです。

がんトータルサポートサービス

がん治療に関するご質問やご相談に経験豊かな医師、保健師、看護師等の専門スタッフがお応えします。また、がんPET検診サポートサービスや心理カウンセラーによるがんこころのサポートサービス等も利用できます。

健康医療相談サービス

医師、保健師、看護師等の資格をもつ経験豊かなティーベックの相談スタッフが、日々の健康や病気・ケガへの不安、そして病気・ケガをした際の緊急時の対処等、24時間・年中無休でサポートします。

こころのサポートサービス

こころの悩み、不安、心配事について電話や面談・オンライン面談によるカウンセリングを受けられるサービスです。

糖尿病トータルサポートサービス

地域糖尿病療養指導士等、専門の保健師、看護師に糖尿病について相談することができます。必要に応じて糖尿病の専門医を紹介、または糖尿病の専門医がいる医療機関を案内します。

FWDケア

給付金等支払の原因となった病気や関連するお悩みについて、看護師や専門家（心理カウンセラー・ファイナンシャルプランナー等）に相談できます。また、ウィッグ購入や家事代行等のサポートコンテンツが優待価格でご利用いただけます。

※「FWDケア」を利用できる対象商品は限られています。

※FWD健康サービスは、FWD生命保険（株）の業務委託先であるティーベック（株）が提供します。保険契約による保障とは異なります。

※サービスをご利用いただける商品、ご利用いただける方やご利用可能な期間についての詳細は、当社ホームページ（fdwlife.co.jp/products/support-services/）をご確認ください。

Findme F(ファインドミーエフ)



Findme F(ファインドミーエフ)は、“ネット型”のセカンドオピニオンサービスです。相談内容と、検査データもしくは紹介状の内容を入力・送信すると、がんの専門医が患者さまを見つけて、治療方法についての提案を受けることができます。

※Findme F(ファインドミーエフ)は、FWD生命保険（株）の業務委託先であるHatch Healthcare（株）が提供します。保険契約による保障とは異なります。

※サービスをご利用いただける商品、ご利用いただける方やご利用可能な期間についての詳細は、Findme F(ファインドミーエフ)のホームページ（findme.life/fwdlife/）をご確認ください。

FWDがん治験情報提供サービス

日本全国で実施中のがん治験情報を検索できるサービスです。一般では探すことが難しい「がん治験に関する情報」を分かりやすく検索することができ、自分にあったがん治験を探すことができます。

※FWDがん治験情報提供サービスは、FWD生命保険（株）の業務委託先である（株）Buzzreachが提供します。

※サービスをご利用いただける商品、ご利用いただける方やご利用可能な期間についての詳細は、FWDがん治験情報提供サービスのホームページ（searchmytrial.com/smt-sites/fwdlife/）をご確認ください。

※ご利用に際しては諸条件がありますので、詳細は、ご契約後にお送りのご案内資料をご覧ください。

※ご利用者さまの状況または相談内容等により、ご利用の制限・停止をさせていただく場合があります。

※本内容は2023年10月1日現在でご提供しているサービス内容に基づき掲載しています。

「Omne by FWD」のご案内

新しいライフスタイルアプリ「Omne by FWD」

Omne (オムニ) は音楽やゲーム、科学的なヘルスキャン・睡眠サポートなどのメニューから毎日の習慣づくりをサポートするアプリです。

※利用については満18歳以上である必要があります

またゲームやヘルスキャンなどで貯めたOmneのポイントを使って、世界の国々の木の里親になることができます。

里親になった木の成長にあわせて、その木が削減したCO2削減量の確認もでき、習慣づくりをしながらCO2削減に貢献できるユニークな仕組みも提供します。



Omneはすべてのコンテンツが無料です。



2023年10月2日より保険手続きも可能に

2023年10月2日より以下の保険手続きが「Omne by FWD」上で可能になりました。

住所変更 	電話番号変更 	解約 	クレジットカード変更 	受取人変更
契約者改姓 	控除証明書再発行 	他手続も今後追加予定 		

※ご利用いただける保険手続きは、変更となる場合がございますことをご了承ください。
※詳細は<https://www.fwdlife.co.jp/omne/>をご覧ください。

営業拠点

名称	所在地	TEL・FAX
北海道支社	〒060-0003 北海道札幌市中央区北三条西4-1-1 日本生命札幌ビル17F	TEL. 011-231-6631 FAX. 011-231-6651
東北支社	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町1-8-3 富士火災仙台ビル9F	TEL. 022-221-2521 FAX. 022-221-2550
首都圏統括支社	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-2-5 日本橋本町二丁目ビル	TEL. 03-6775-8110 FAX. 03-3274-5364
関東上信越支社	〒330-0844 埼玉県さいたま市大宮区下町1-45 松亀センタービル1F	TEL. 048-658-2300 FAX. 048-644-3312
東海・北陸統括支社	〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄5-27-12 富士火災名古屋ビル5F	TEL. 052-261-6681 FAX. 052-261-6665
近畿統括支社	〒530-8573 大阪府大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪タワーB22F	TEL. 06-7223-4500 FAX. 06-6375-5126
中四国支社	〒730-0011 広島県広島市中区基町12-6 富士火災広島ビル9F	TEL. 082-502-7071 FAX. 082-223-3530
九州支社	〒812-0039 福岡県福岡市博多区冷泉町10-21 南日本博多ビル5F	TEL. 092-284-0063 FAX. 092-284-8486
中央営業部	〒900-0006 沖縄県那覇市おもろまち1-1-12 那覇新都心センタービル6F	TEL. 093-330-2400 FAX. 098-862-4461
パートナーシップ開発部	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町2-2-5 日本橋本町二丁目ビル	TEL. 03-6775-9030 FAX. 03-3241-7628

お問合せ先

FWD生命総合サービスセンター

0120-211-901 (通話料無料)

受付時間：月～金（祝日・年末年始を除く）
9:00 - 18:00

※ご契約に関する照会の際には証券番号を確認の上、契約者ご本人さまよりお電話ください。